

レタスバーティシリウム萎凋病を確認

[現在の状況]

平成 21 年 10 月、坂東市のレタス圃場で、葉が褐変し、株が萎凋する症状が発生した。病原菌による被害が疑われたため、農業総合センター園芸研究所において、菌を分離・同定したところ、*Verticillium dahliae* が分離され、本県では未確認のレタスバーティシリウム萎凋病であることが確認された。本病はこれまでに兵庫県と香川県で発生が確認されている。

[病徴]

はじめ外葉がしおれて褐変し、その後株全体が萎凋する（写真 1）。株元を切断すると維管束の褐変が見られ、病徴がすすむと髓の中心部分も褐変する（写真 2）。発病した株は玉の肥大が悪く、クラウン部分が褐変するため商品価値が著しく低下する。

[伝染方法等]

本病は糸状菌による土壌伝染性の病害であり、病原菌はレタス以外の作物にも感染する。被害株上に形成された厚壁孢子が、微小菌核等の耐久体を作って土壌中に残り、作物の根部から侵入して導管を侵し、株全体を萎れさせる。耐久体は土壌中で長期間生存することが知られている。

[防除対策]

現在のところ本病に対する登録農薬はない。

発病株や被害残渣は、次作の伝染源となるためポリ袋等で密閉して腐熟させたり、圃場外に持ち出して土中深く埋める等、適正に処分する。

発生圃場での作業は最後に行うようにし、作業終了後は、農機具や長靴等に付着した土壌の洗浄を徹底する等、汚染土壌を未発生圃場に持ち込まないように注意する。



写真 1 被害株の症状



写真 2 維管束の褐変症状